JAM・ミツミユニオン

UNION news

ミツミユニオン本部発行　第４２期　第６号　　発行日　平成２３年１２月８日
発行責任者　高見中央執行委員長　　監修　東條副中央執行委員長　　編集責任者　梶山書記長
この機関紙は、ミツミユニオン・組合員を対象として配布しています。転載を禁止します。
Email address:mitsumiunion@fmwu.or.jp　Homepage address:http://www.fmwu.or.jp

十一月二九日に本社経営協議会を開催

緊迫の事業環境の下での経営協議会の模様

厳しい事業環境下における後半予算の見直し含め検討

11月29日に本社経営協議会を開催しています。今回の本社経営協議会は、前期実績および後半予算、今後の見通しに関する内容で行われました。通常の場合、もっと早期に設定される経営協議会ではありますが、後半予算の作成が大幅にずれ込んだ関係で、11月末の開催となったものです。

経営協議会の中で会社は、「ミツミ電機の置かれた環境は厳しさは更に増しており、第２四半期決算時の下方修正発表後も、厳しい見通しは変化せず、苦しい後半予算を組まざるを得なかった」「この苦しい時期を早期に脱却するためにも、ユニオンにもより一層の理解と協力をお願いしたい」と述べています。

まず会社から、全体の後半予算に関する説明がありました。（概要は下記に記載）

社外発表概要を下記に記載）

後半予算に関する説明が行われています。既に発表している後半予算を確保するように各事業部が努力していると説明しています。概要では、電子機器事業本部においては、今後一部ゲーム機の受注を見込んでいることや、ＭＡＴやＣＡＭも、今期後半から売上が伸びる見通しとなっているとのことです。半導体事業本部に関してはＭＩＣが依然厳しい状況が続いており、ＣＯＢとファウンダリで支えるものの赤字は脱却できず、68期には事業部として黒字（ＭＩＣ単独では70期黒字）を目指していくとのことです。通信機器事業本部では、電源でゲーム関連の受注などで改善をはかっていく予定だとしています。ＡＶＣでは、ゲーム関連のモジュール減が大きく、外販製品の減少が厳しく、高週波技術の遅れなどに対する対応が求められていると説明しています。要素部品事業本部では、ＳＷも競業他社の進出により受注減をどのように回復するか、ＣＯＮは主力製品が無い中で売上を回復していくか、などが鍵になってくると説明しています。（各事業部の詳細については、別途事業本部経営協議会で確認を行っています。）

経営協議会にあたって高見委員長から「私が記憶する中で最も厳しい経営状況である」「何よりも従業員の活力の源は、業績回復にあると思っている」「ユニオンとしても、出来る範囲でしっかりと協力していきたい」と述べました。

ミツミ電機（株）平成２４年３月期第2四半期決算

連結（百万円）

売　上	営業利益	経常利益	純利益
81,124	▲4,627	▲5,353	▲5,599
▲12.5%	←前年度同期比		

通期予想　連結（百万円）

売　上	営業利益	経常利益	純利益
168,000	▲8,500	▲9,500	▲10,000
▲10.4%	←前年度同期比		

海外人員体制について 中国の人員確保に懸念

本社経協の資料を見て、ミツミ連結の人員体制について質問をしています。「今期と来期で、ミツミの連結人員における海外人員の変動が見込まれているようだが、生産体制の確保や質の面で懸念はないのか」と確認しています。それに対して「中国の事業所で差があるものの、離職率が高いのが実情である。旧正月を挟んで、大きな懸念は事実。中国もあるものは事実。中国も生活価値観を含めて労働者も大きく変化してきており、現状でも人員確保がかなり難しくなっているがフィリピンは中国ほど離職率は高くない。中国に影響が出ないよう現地や事業部ながら対応していくことが重要だと考えている」とのことでした。

従業員の不安とストレス 心も負のスパイラル懸念

それ以外に、ユニオンから「業績が厳しい中で、半導体やＡＶＣの業績に大きな懸念をしている。こういった中で、全社的にそうだが、半導体やＡＶＣで働く従業員なども不安やストレスが高まってきており、ネガティブな懸念や憶測が先行していく懸念がある。経営サイドからもポジティブな対応策を検討すべきではないか」と指摘しました。会社は「全社的に厳しいが、ＡＶＣと半導体は確かに深刻な状況と言える。だからといって、必要以上にネガティブになられても困る。これから先のことも考え、成長のエンジンになるような施策を打っていくことが必要だと思っている。投資をしない訳ではなく、伸ばす事業の発展のために、い管理職になるのは、上司などィブになれるよう指導が必要だと思っています。ポジティブな仕方もあの牽引の社員がネガテ思ってくる」と説明しています。

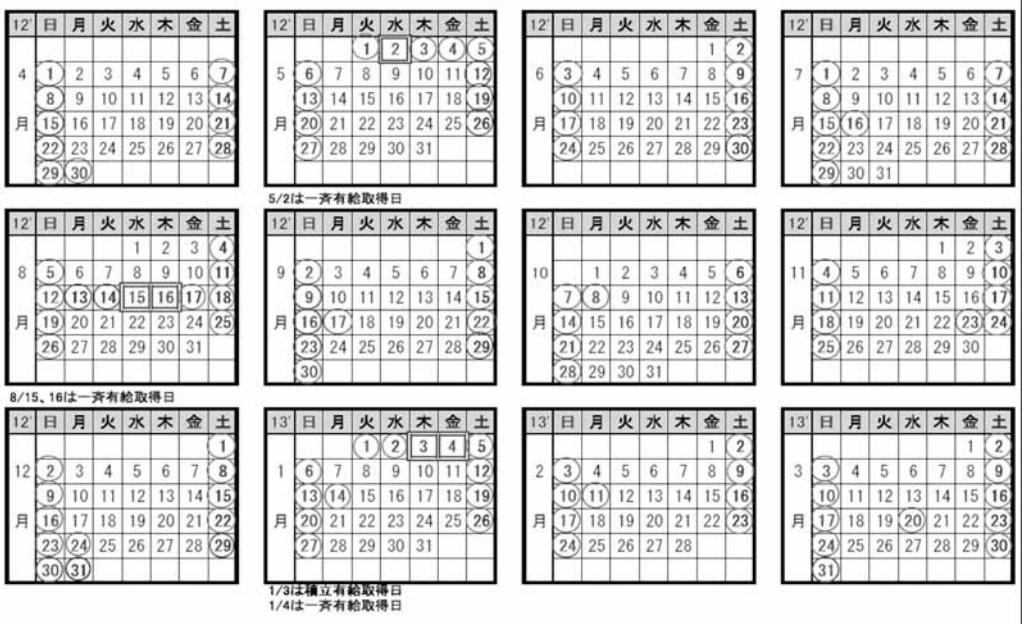
限られた投資をどのように 企業発展の礎としていくか

更に会社は、こう説明しています。「自己資本比率が落ちています。投資対効果の効果が薄く、新たな投資資産を生み出していないのが実態です。ミツミ電機にとっては自己資本比率の確保はとても重要です。限られた資金の中で、ミツミ電機（株）の発展の礎となるような投資が必要です。まずは、大きな赤字を止める投資（施策）、次に成長のための投資（施策）を適切に選択しながら行う事が急務になります」とし、早急な業績回復施策の必要性を強調し、特別な施策が有る場合は再度説明を行うとしています。

２０１２年度ミツミカレンダーが決定

２０１２年度のミツミ電機のカレンダーが決まりました。予め労働協約で定めた条件で基本形は確定されますが、休日と稼働日のバランスなどが著しく悪い場合は、労使協議で決定することになっています。２０１２年度については、調整前の基本稼働カレンダー通りで、バランス良く保たれていることから、変更を加えずにそのまま協定することで合意したものです。

2012年（平成24年）ミツミカレンダー



労 働 時 間

	歴日数	日曜	祝祭日	会社休日	休日計	稼働日数	稼働時間
4	30	5	1	4	10	20	156.7
5	31	4	3	4	11	20	156.7
6	30	4		5	9	21	164.5
7	31	5	1	4	10	21	164.5
8	31	4		7	11	20	156.7
9	30	5	2	4	11	19	148.8
10	31	4	1	4	9	22	172.3
11	30	4	2	3	9	21	164.5
12	31	5	1	6	12	19	148.8
1	31	4	2	5	11	20	156.7
2	28	4	1	4	9	19	148.8
3	31	5	1	5	11	20	156.7
計	365	53	15	55	123	242	1,895.7
					週平均稼働時間		36.5 H

〈参考〉